

研究者リーダーシップ・プログラム

「第7回 自身の強みを生かしてリーダーシップを執る」参加レポート

今回は、「第7回 自身の強みを生かしてリーダーシップを執る」をテーマに名古屋大学の東村博子先生に講義いただきました。講義の中では、自分の強みを生かして、なお且つ仲間と win-win の関係を保ちながらリーダーシップを執るために、自身や相手とどう向き合うべきかの心構えを学びました。

講義の中では、多様性が社会や組織の活性化には必須であることを日本や他国の実例を踏まえてレクチャーいただきました。印象的だったのは、ジェンダー平等を含む多様性への寛容性によって、急激な社会状況の変化に対して柔軟性をもたらす、という教えでした。私自身もこれまでを振り返ると、従来からの思想が支配的でどちらかというと閉塞的な研究環境から、多様なアイディアや価値観が入り混じった研究環境等を経験してきました。どちらが善悪ということはありませんが、前者に関しては一点突破的な団結力や経験はありながらも、異なる研究環境へのシフトや新たな分野創出への柔軟性が欠点であると感じていました。対して、後者に関しては新しいビジョンに対する寛容性や、取り組みへの挑戦意識が高い傾向が伺える一方で、時間経過に伴って個々人間の活動や思想のばらつきが大きくなることも多く感じました。この時、全てを引っ張る強いリーダーシップではなくても、各人の個性を生かして、自発的なやる気を誘発させる活性剤のようなリーダーシップというのが組織の強化・持続に重要であることを学びました。

私自身、上記のようなリーダーシップを執るには、講義の中にも出てきた「無意識のバイアス」といった課題の克服や、ワーク・ライフバランスの実現による幸福度の向上といったことへの理解も含めて日々意識していく必要があると感じています。今回は、先達で素晴らしい成功を収めてきた東村先生のお話を拝聴し、私が目指すべきリーダーシップ像を考える貴重な機会をいただきましたことにお礼申し上げます。

(舟山啓太・株式会社豊田中央研究所 研究員)